

## 植物相・生物相調査実施結果

## 目 次

1. 生態系調査の概要.....	1
(1) 目的.....	1
(2) 対象種.....	1
(3) 調査時期.....	1
(4) 調査方法.....	1
2. 調査結果.....	3
(1) 鳥類.....	3
(2) 昆虫類（主に大型種）.....	6
(3) 希少植物.....	10
3. 課題.....	10
資 料.....	11
資料1 踏査ルート及び重要種確認位置図.....	13
(1) 鳥類.....	14
①秋期調査（平成28年10月26日）.....	14
②冬期調査（平成29年1月23日）.....	16
③春期調査（平成29年5月26日）.....	18
④夏期調査（平成29年6月16日）.....	20
(2) 昆虫類.....	22
①秋期調査（平成28年10月26日）.....	22
②春期調査（平成29年5月29日）.....	24
③夏期調査（平成29年7月6日）.....	26
④秋期調査（平成29年9月15日）.....	28
(3) 希少植物.....	31
資料2 確認種一覧.....	33
(1) 鳥類調査 確認種一覧.....	34
(2) 昆虫類調査 確認種一覧.....	35

# 1. 生態系調査の概要

## (1) 目的

当初計画策定と並行して実施された「基地跡地公園・シンボルロードに係る植生調査及び生態系調査等委託業務 植生調査及び生態系調査 報告書」(平成23年(2011年)3月)(以下「平成22年度調査」という。)をふまえ、計画対象区域において鳥類、大型の昆虫類及び希少植物の生息・生育状況をモニタリングすることを目的とします。

## (2) 対象種

平成22年度調査をふまえ、鳥類、大型の昆虫類及び希少植物(サイハイラン、マツバラ)を対象に調査を行いました。

## (3) 調査時期

現地調査は、平成28年(2016年)の秋期から平成29年(2017年)の秋期にかけて、対象種ごとに下表に示す期日に実施しました。

表 調査対象及び調査日

対象	調査日
鳥類	平成28年10月26日(秋期調査)、平成29年1月23日(冬期調査) 平成29年5月26日(春期調査)、平成29年6月16日(夏期調査)
昆虫類	平成28年10月26日(秋期調査)、平成29年5月29日(春期調査) 平成29年7月6日(夏期調査)、平成29年9月15日(秋期調査)
希少植物	平成29年5月26日

## (4) 調査方法

### ●鳥類調査

基地跡地内を徒歩で移動しながら目視で確認または鳴き声が確認された種を記録しました。

### ●昆虫調査

平成22年度調査で貴重な種が確認された場所において目視、捕虫網で採取された種を記録しました。なお、移動中に確認された種も記録しています。

### ●希少植物(サイハイラン、マツバラ)

平成22年度調査において生育が確認された地点において、個体数を確認しました。



図 主な調査地点 (鳥類・昆虫類)

## 2. 調査結果

### (1) 鳥類

#### ア) 確認種

秋期、冬期、春期、夏期の調査の結果、4目16科27種が確認されました。

うち、平成22年度調査及び今回調査ともに確認された鳥類は、4目16科24種でした。

#### イ) 渡り区分

記録状況から、各確認種の渡り区分を以下のように設定しました。

##### ・ 留鳥

キジバト、オオタカ、ノスリ、コゲラ、オナガ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、トラツグミ、スズメ、カワラヒワ、ウソ、ホオジロ、カワラバト(ドバト)の20種が該当すると考えられます。

##### ・ 夏鳥

ツバメが該当すると考えられます。

##### ・ 冬鳥

シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、アトリ、シメの6種が該当すると考えられます。



コゲラ



オナガ



モズ



シジュウカラ



ヒヨドリ

## ウ) 希少種

環境省レッドリストおよび埼玉県レッドデータブック（以下「埼玉県RDB」という。）に記載されている種は以下の4種であり、ノスリを除く3種は平成22年度調査においても確認された種でした。

なお、埼玉県RDBの地帯区分では、本調査地は「低地帯 荒川以西」となります。

オオタカ (タカ目タカ科)	秋期調査中に、環境省RLで準絶滅危惧(NT)・埼玉県RDBで準絶滅危惧(NT2)にあたるオオタカが確認された。調査期間がオオタカの分散期(非繁殖期)にあたることから、偶発的な飛来の可能性が高い。
ノスリ (タカ目タカ科)	冬期調査中に、埼玉県RDBで絶滅危惧Ⅱ類(VU)にあたるノスリが確認された。調査期間はノスリの越冬期にあたり、埼玉県RDBには、「近年、見沼田圃では調節池造成地に越冬個体が見られている。この他、利根川や江戸川・荒川の河川敷の数ヶ所、北本自然観察公園等では、現在も越冬している。」との記述があり、本調査地内には猛禽類のものと考えられる古巣は確認されていないことから、荒川の河川敷付近で生息する個体が飛来した可能性が高いと考えられる。
ルリビタキ (スズメ目ヒタキ科)	冬期調査中に、埼玉県RDBで準絶滅危惧(NT2)にあたるルリビタキが確認された。冬鳥であり、過年度にも冬期に本種が確認されているため、本調査地で越冬している可能性が高いと推察される。
ホオジロ (スズメ目ホオジロ科)	春期調査中に、埼玉県RDBで準絶滅危惧(NT2)にあたるホオジロが確認された。平成22年度調査においても春期に本種が確認されており、林縁の藪地や植木畑周辺等に営巣することが知られている。本調査地は林縁に藪地が存在していることから、繁殖の可能性があると考えられる。

※網掛けは、平成22年度調査確認種

## エ) 外来種

外来種の選定にあたっては外来種の選定にあたっては「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成16年6月2日法律第78号）、「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（平成27年 環境省）、「外来種ハンドブック」（平成14年 日本生態学会）を用いました。

確認種のうち、外来種はカワラバト(ドバト)1種でした。

特定外来種、生態系被害防止外来種には該当していません。

## オ) 確認種の選好環境および重要なエリア

### ○秋期調査より

いわゆる「都市鳥」と呼ばれる種のほかに、樹林性のオオタカ、エナガ、草地のような開けた空間と樹林の組合せを好むモズやジョウビタキ、カワラヒワ、藪を好むウグイスが確認されました。

### ○冬期調査より

秋期調査で確認された種のほかに、樹林性のノスリ、ウソ、シメ、草地のような開けた空間と樹林の組合せを好むアトリ、樹林の林床を好むトラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキが確認されました。

### ○重要なエリア

本調査地では、樹林地が重要なエリアといえると考えられます。

重要種として、秋期調査では樹林性のオオタカ、冬期調査ではノスリ及び樹林の林床を好むルリビタキが確認されており、重要種ではない種でも樹林性、樹林に関連した環境（樹林の林床等）を好む種が比較的多く確認されているためです。

## (2) 昆虫類 (主に大型種)

### ア) 確認種



平成 28 年 (2016 年) の秋期調査において 11 目 68 科 136 種、平成 29 年 (2017 年) の春期調査、夏期調査及び秋期調査において 13 目 92 科 243 種が確認されました。

全調査を通して、13 目 104 科 300 種が確認されました。

また、平成 22 年度調査及び今回調査とも確認された昆虫類は、13 目 67 科 135 種でした。

### イ) 希少種

環境省レッドリストに記載されている種は以下の 2 種でした。

<p>エノキカイガラ キジラミ (キジラミ科)</p>	<p>平成28年(2016年)秋期調査中及び夏期調査中に、環境省レッドリストで準絶滅危惧(NT)にあたるエノキカイガラキジラミが北側の林縁のエノキにおいて1個体確認された。</p> <p>本種は本州と九州の丘陵地から低山地に分布する。幼虫は寄主植物であるエノキの葉にツノ状の虫えい(ゴール)を形成し、その開口部を貝殻状の白色分泌物で覆う特性がある。寄主植物は全国に普通であるが、本種の産地は局限されるうえに近年は減少が著しく、多くの既知産地で生息を再確認できない。激減した原因はわかっていないが、市街地に近い丘陵地では土地造成の影響を受けた産地も多いと思われる。また、河川敷の生息地では河川開発による環境変化も考えられる。埼玉県昆虫誌Ⅰ(埼玉昆虫談話会 1998)によれば、「埼玉県では未だ確認されていない」とされている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p style="text-align: center;">エノキカイガラシジミ                      エノキカイガラシジミの虫えい</p>
<p>アリヅカウカ (アリヅカウカ科)</p>	<p>平成29年(2017年)秋期調査中に、埼玉県RDBで準絶滅危惧(NT1)にあたるアリヅカウカが調査地内の草地や樹林等6ヶ所において6個体確認された。</p> <p>本種は北海道、本州、九州の平地から山地に分布する。詳しい生態は不明だが、国外では近縁の種がアリと共生することが知られており、本種も同様の生活史を送ると推測される。</p> <p>埼玉県昆虫誌(埼玉昆虫談話会 1998)によれば、朝霞市からの記録はない。</p>



ウ) 注目すべき種（下線は平成 22 年度調査報告書に挙げられた注目すべき種）

○バッタ類

確認された種には、希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種でした。そのうち注目される種としては、ホシササキリ、キアシヒバリモドキ、トノサマバッタ、ヤブキリ、キアシヒバリモドキ、ショウリョウバッタモドキが挙げられます。



トノサマバッタ



キアシヒバリモドキ



ショウリョウバッタモドキ

○チョウ類

確認された種には希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種でした。そのうち注目される種としては、イチモンジチョウが挙げられます。

平成22年度調査で確認されたトラフシジミは、今回確認されませんでした。

○コウチュウ類

確認された種には希少種は含まれず、ほとんどがいわゆる一般種でした。そのうち注目される種としては、ヤマトタマムシが挙げられます。

## 工) 外来種

外来種の選定にあたっては「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年6月2日法律第78号)、「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成27年 環境省)、「外来種ハンドブック」(平成14年 日本生態学会)を用いました。

平成28年(2016年) 秋期調査	アオマツムシ、プラタナスグンバイ、ヨコヅナサシガメ、コルリアトキリゴミムシ、ヤサイゾウムシ、セイヨウミツバチ、モンシロチョウの7種が確認された。いずれの種も関東周辺では広く定着しており、現在のところ生態系への深刻な被害の報告はなく、特定外来生物、生態系被害防止外来種には該当していない。
平成29年(2017年) 春期・夏期・秋期調査	春期調査では、アオマツムシ、アワダチソウグンバイ、シロテンハナムグリ、ヒメカツオブシムシ、アルファルファタコゾウムシ、アカボシゴマダラの6種、夏期調査ではアオマツムシ、プラタナスグンバイ、アワダチソウグンバイ、シロテンハナムグリ、ヤサイゾウムシの5種、秋期調査ではアオマツムシ、カンタン、 <i>Dentatissus damnosus</i> 、アワダチソウグンバイ、アカボシゴマダラの5種、合計で10種が確認された。 このうちアカボシゴマダラは生態系被害防止外来種の重点対策外来種に該当する。いずれの種も関東周辺では広く定着しているが、現在のところ生態系への深刻な被害の報告はない。

## オ) 重要なエリア

### ・草地②

基地跡地暫定利用広場「朝霞の森」として利用されているエリアの一部には草刈りが実施されていない場所が残されており、他のエリアと比べて、非常に多くの昆虫類が確認されており、現状が維持されれば、さらに多くの昆虫類が確認されると推測されます。

## カ) 定期的な管理が必要なエリア

### ○草地①

草地として調査を実施しましたが、大半がクズに覆われ、ススキなどのイネ科植物、ヨモギなどのキク科植物といった昆虫が多く見られる植物はエリアの端にわずかにみられる程度であったため、定期的な刈り取りなどによるクズの除去が望ましいといえます。

確認された昆虫類も非常に単調で、種数が少ない状況です。刈り取りなどにより、状況が改善されれば、草地②と同様な種が生息可能になると推測されます。



草地①

### ○樹林①、樹林②

両地点ともに木本の成長が進み、林床に光が届きにくい場所が多いことから、林床の植生が貧弱になり、あまり多くの昆虫類は確認されませんでした。間伐や、枝切りを実施し、光環境を改善することによって、より多くの昆虫類が生息可能になると考えられます。

なお、間伐や枝切りによって伐採した枝などは、1か所にためておくことにより、伐採木などに集まる昆虫類の発生が期待できます。



樹林地①



樹林地②

### (3) 希少植物

#### ア) サイハイラン【埼玉県 RDB 準絶滅危惧 (NT)】

- ・ 12 地点で 149 株が確認されました。
- ・ 調査地内では、多数の株がまとまって生育し、前回調査で確認されなかった地点からも出現していました。人の手がほぼ入らず、サイハイランの生育に適した環境が維持されていたため、株数が増加したと考えられます。



サイハイラン

#### イ) マツバラン【環境省レッドリスト準絶滅危惧 (NT)、埼玉県 RDB 絶滅危惧 I A 類 (CR)】

- ・ 3 地点で 13 株が確認されました。
- ・ 斜上した樹幹や、木の根元に生育していました。
- ・ 埼玉県 RDB では、本調査地がある荒川西台地にマツバランが分布しているとされているが、自然分布ではない逸出由来の可能性があると記載されており、本調査地内の確認株も逸出由来の可能性が考えられます。



マツバラン

### 3. 課題

平成 22 年 (2008 年)、平成 28~29 年 (2016~2017 年) に実施した生物調査の結果をふまえ、自然的環境の保全について、以下の課題が挙げられます。

- ・ 基地跡地の樹林地は、基地時代の人工的な植栽に、鳥類散布、風散布等によって分布を広げる樹木が加わって形成されたものであり、周辺地域の植生とは異なる環境となっていることから、将来的にめざす樹林地のあり方については慎重に検討を進める必要があります。
- ・ 確認されている希少種については、公園・シンボルロードの整備を行う際に保全を検討する必要があります。
- ・ 現在の状態を生息環境として活用している生物種も確認されていることから、その生息環境の維持についても留意が必要です。
- ・ 生物の生息状況は常に変化するため、継続的にモニタリングを行うことが必要です。

# 資 料

資料1 踏査ルート及び重要種確認位置図

- (1) 鳥類
- (2) 昆虫類
- (3) 希少植物

資料2 確認種一覧



## 資料 1 踏査ルート及び重要種確認位置図

(1) 鳥類

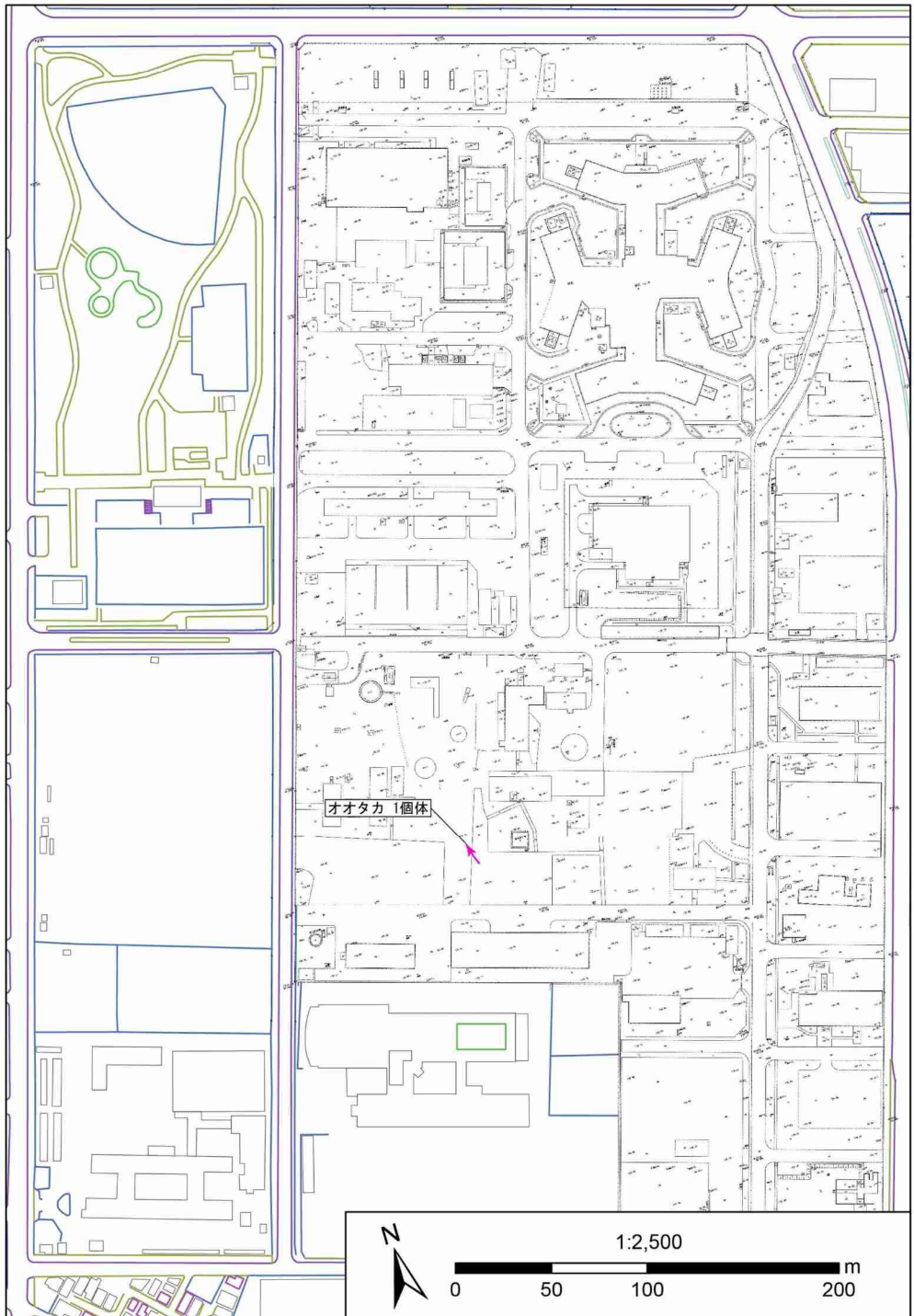
① 秋期調査 (平成 28 年 10 月 26 日)

ア) 踏査ルート





イ) 重要種確認位置

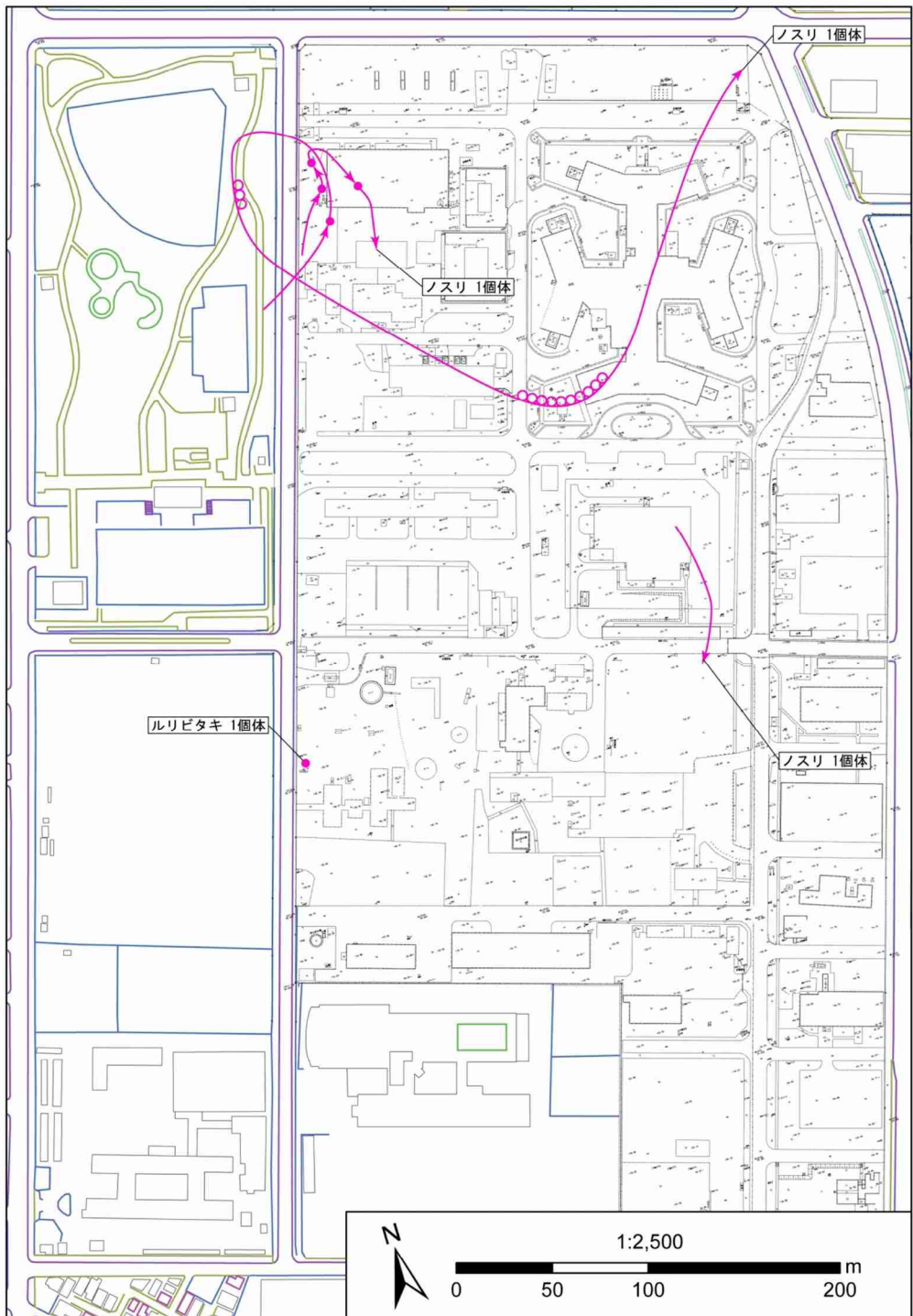


## ②冬期調査（平成 29 年 1 月 23 日）

### ア) 踏査ルート



イ) 重要種確認位置

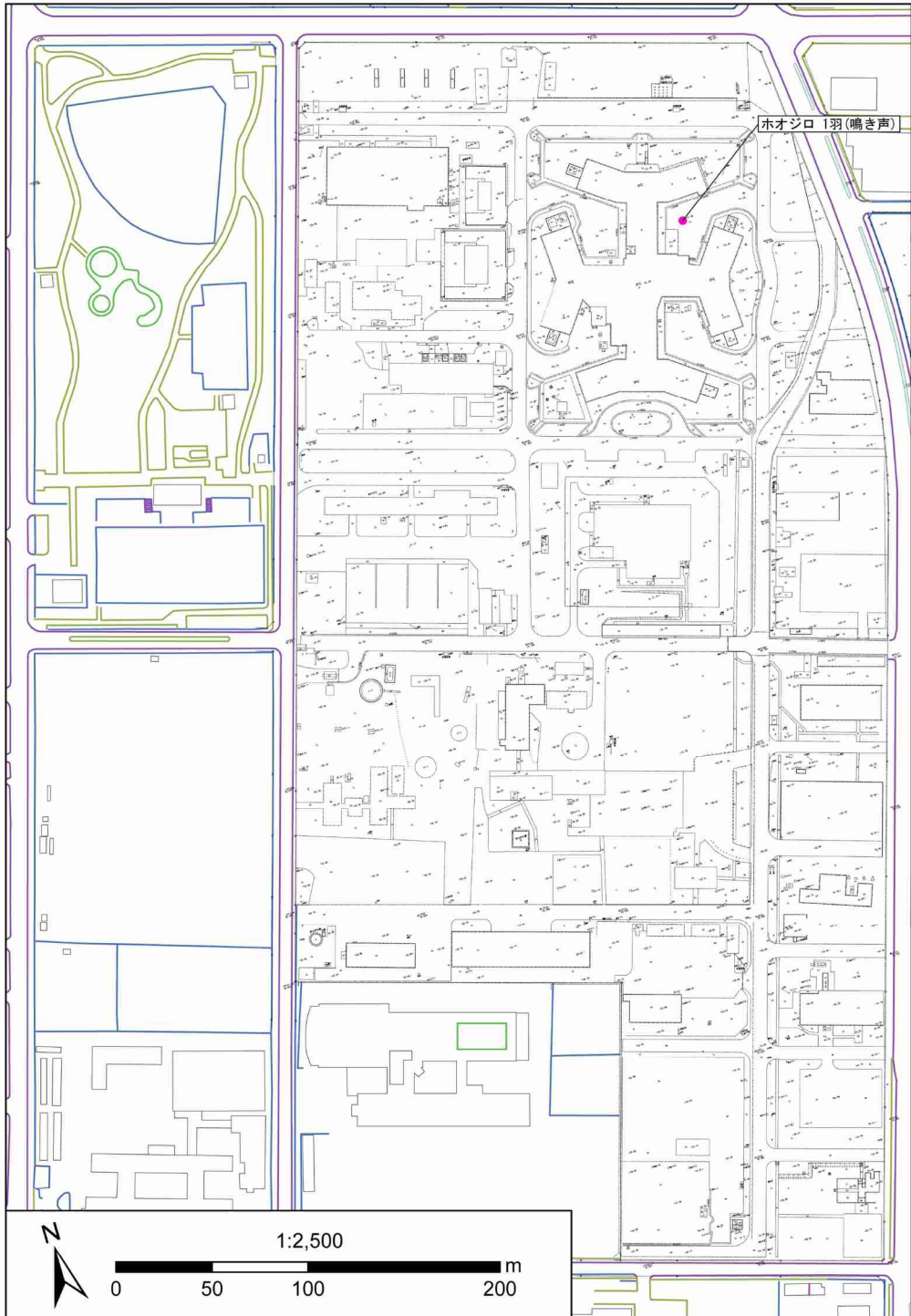


### ③ 春期調査 (平成 29 年 5 月 26 日)

#### ア) 踏査ルート

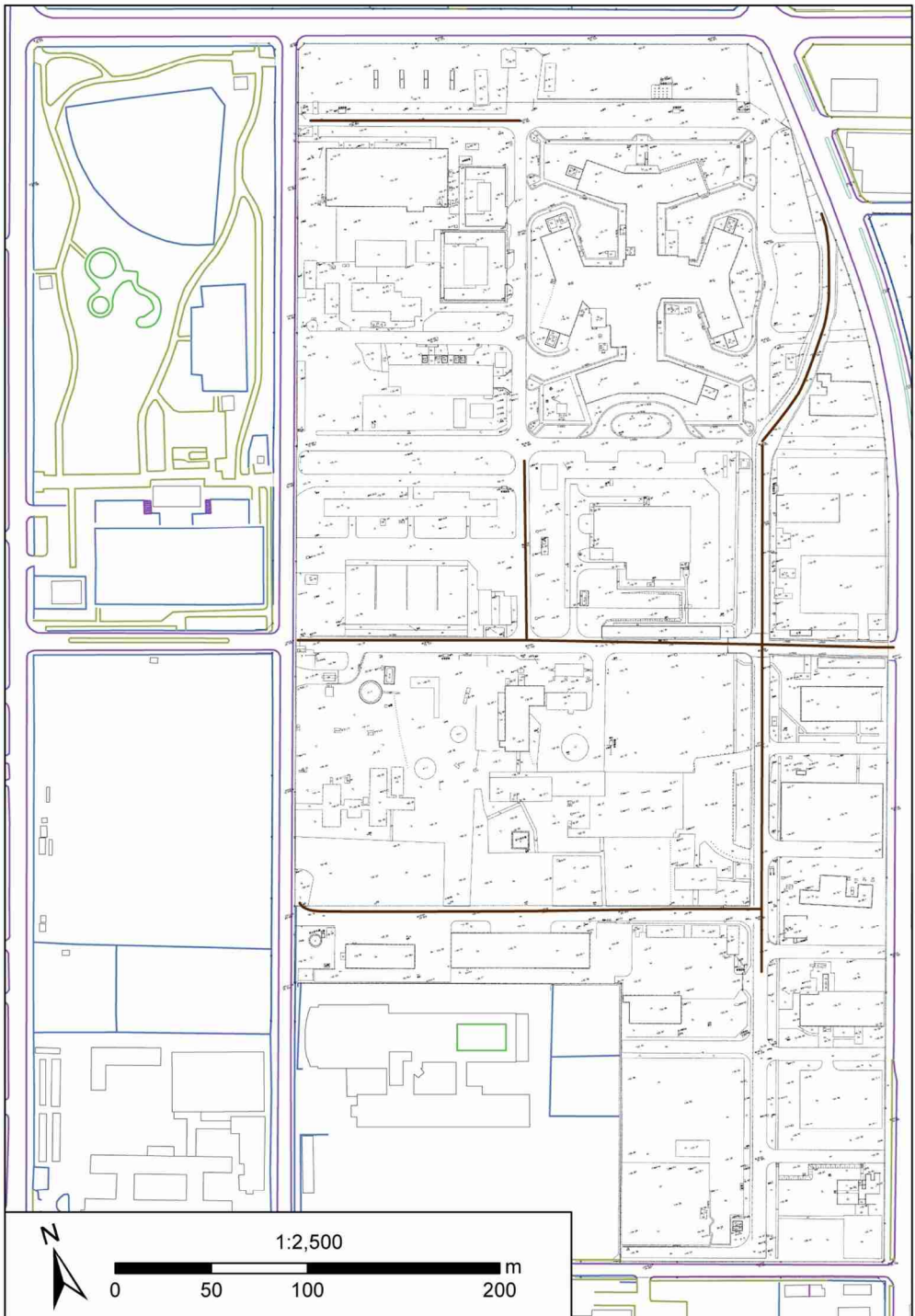


イ) 重要種確認位置



④夏期調査（平成 29 年 6 月 16 日）

ア) 踏査ルート



イ) 重要種確認位置

(夏期調査において重要種は確認されなかった)

## (2) 昆虫類

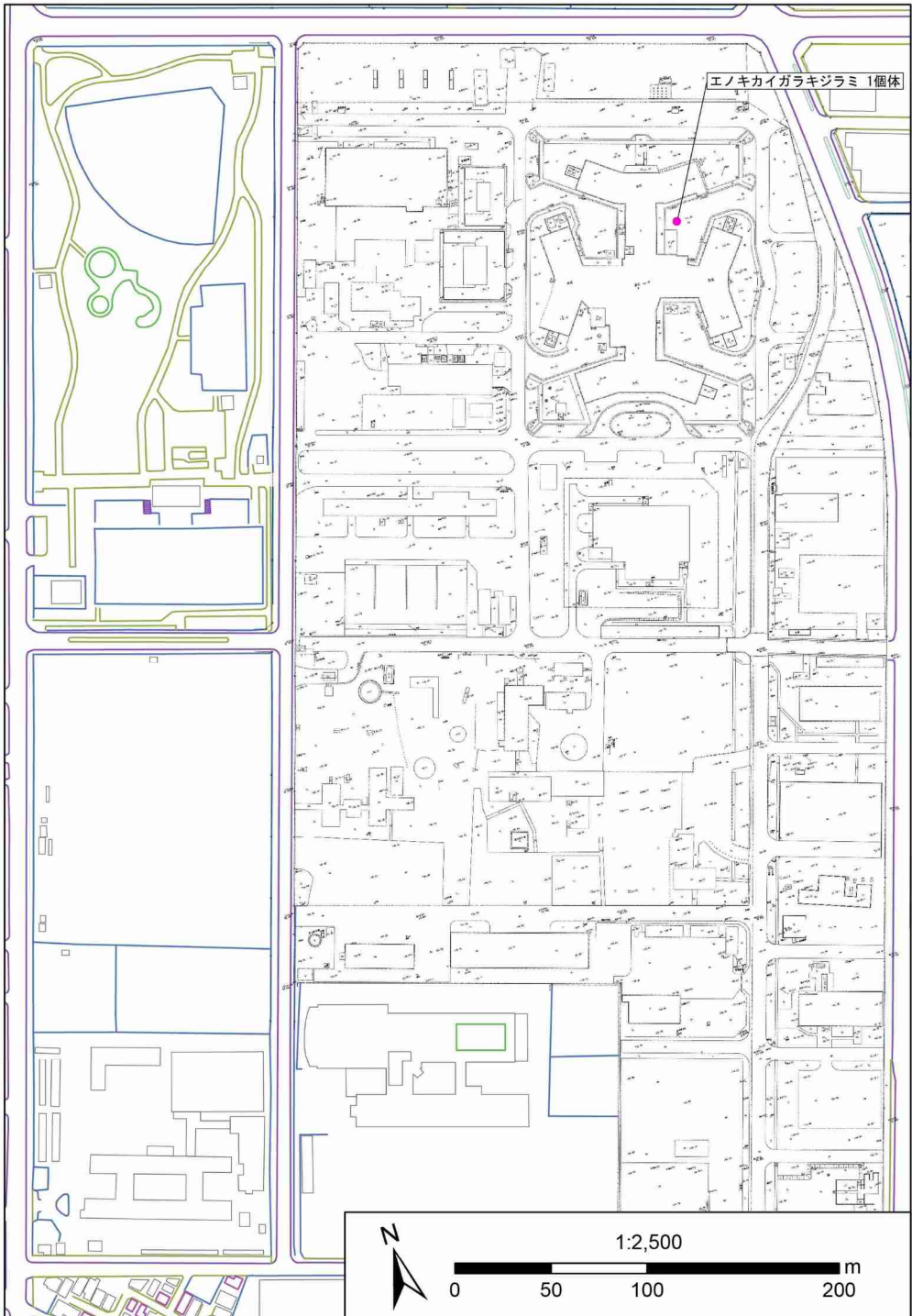
### ① 秋期調査 (平成 28 年 10 月 26 日)

#### ア) 踏査ルート





イ) 重要種確認位置

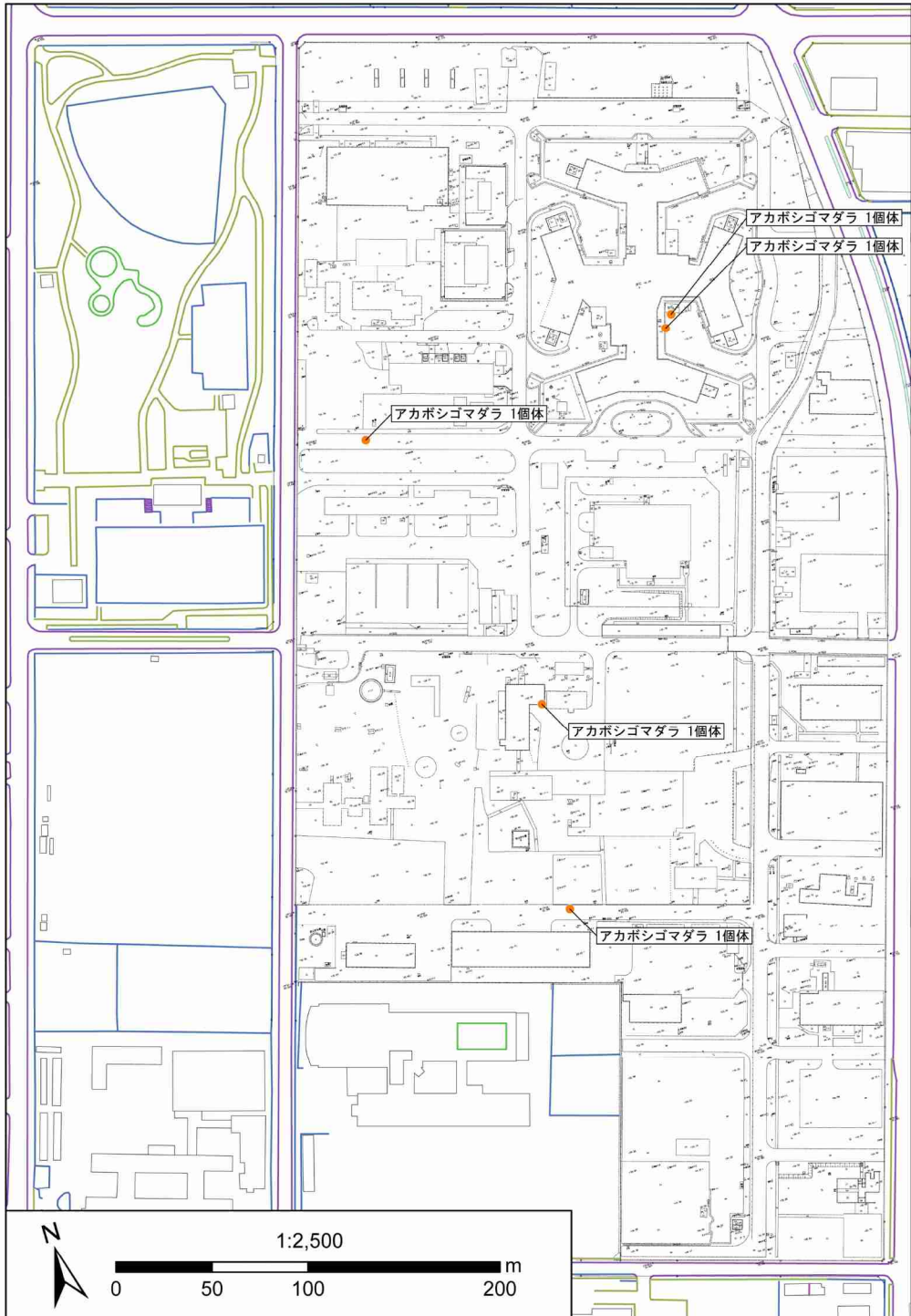


## ②春期調査 (平成 29 年 5 月 29 日)

### ア) 踏査ルート

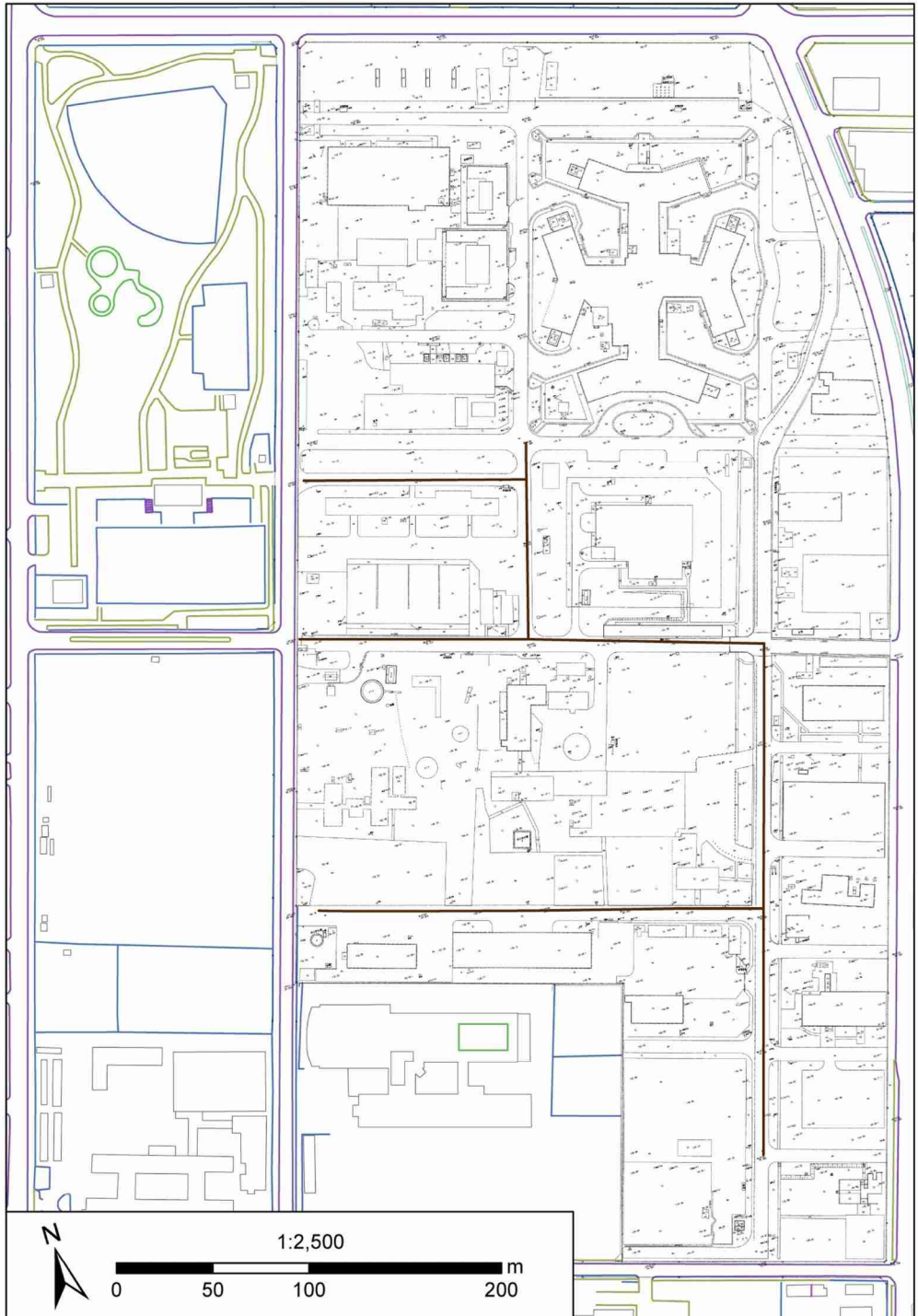


イ) 外来種確認位置



③夏期調査（平成 29 年 7 月 6 日）

ア) 踏査ルート



イ) 重要種確認位置

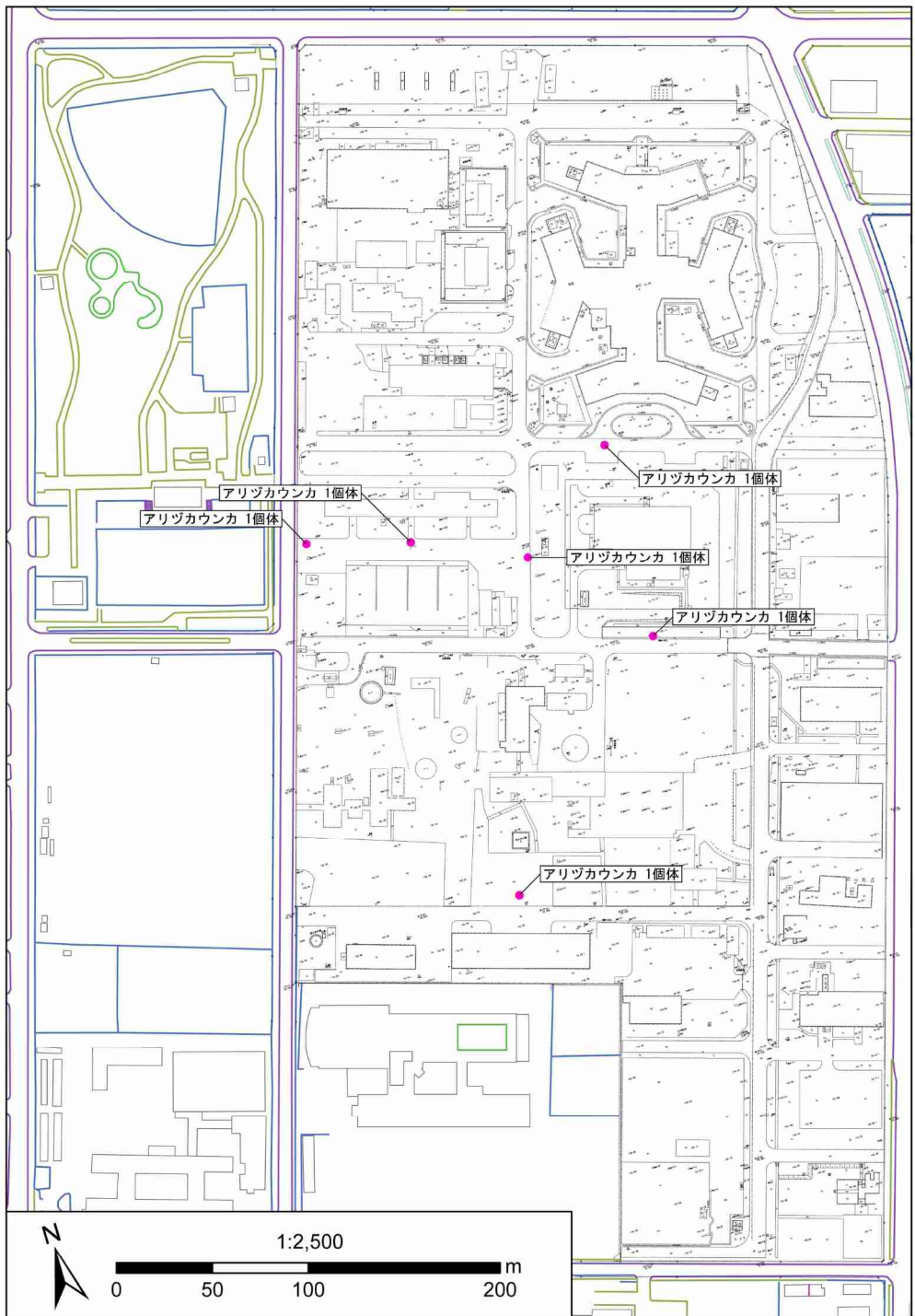


④秋期調査（平成 29 年 9 月 15 日）

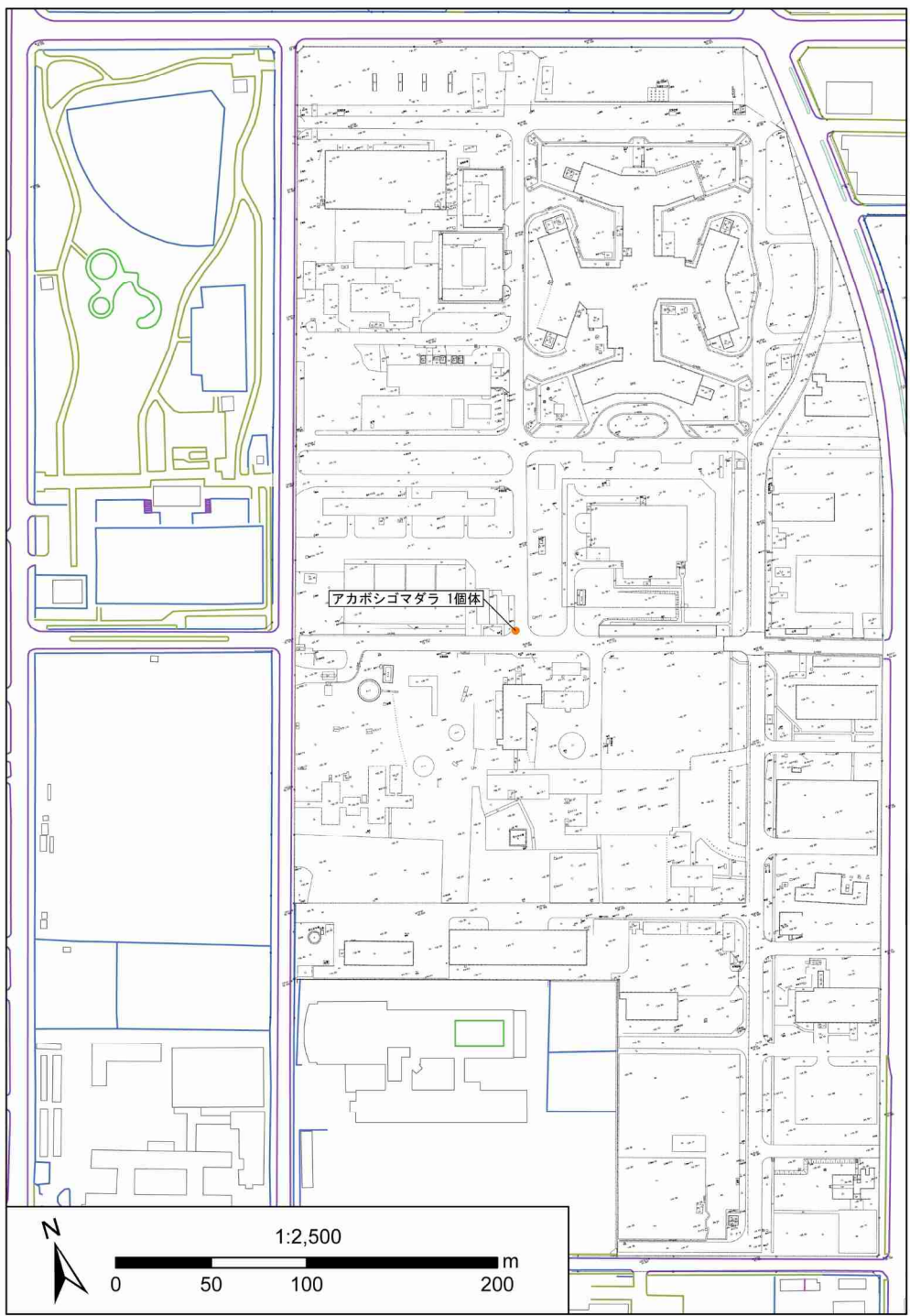
ア) 踏査ルート



イ) 重要種確認位置



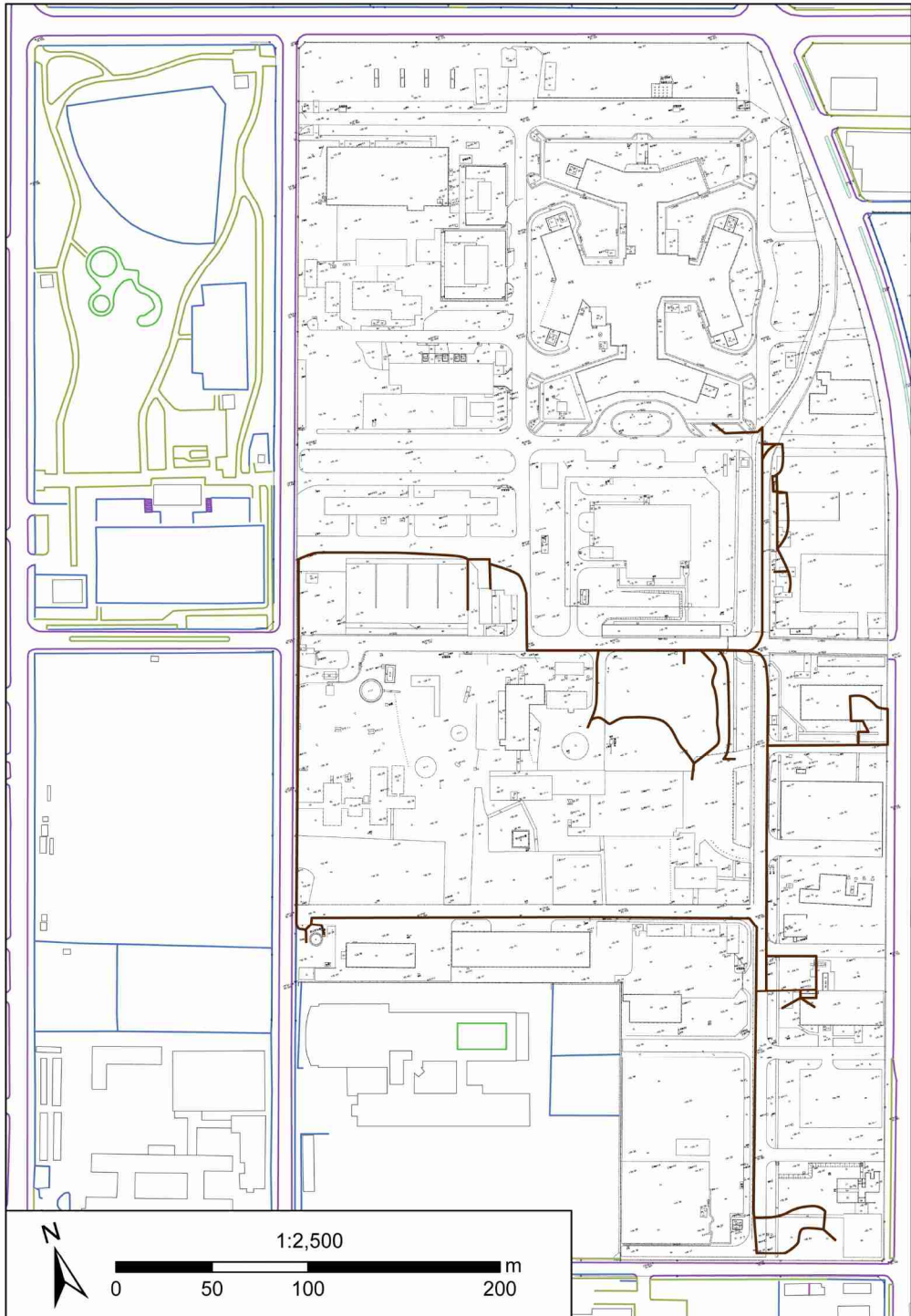
ウ) 外来種確認位置





### (3) 希少植物

#### ア) 踏査ルート



イ) 希少植物確認位置



## 資料 2 確認種一覽

(1) 鳥類調査 確認種一覧

本資料は、平成 21・22 年度調査及び平成 28・29 年度調査における確認種を一覧にまとめたものである。

種の分類は、平成 28・29 年度調査のリストに準じた。また、希少種の分類は、調査実施時点の環境省レッドリスト及び埼玉県レッドデータブックに基づくものである。

No.	目名	科名	種名	学名	平成21・22年度調査									平成28・29年度調査						H21・22とH28・29 両方 H21・22のみ2 H28・29のみ3			
					跡地本体				飛び地部分			希少種		外来種	平成28年度		平成29年度		希少種		外来種		
					秋期	冬期	春期	その他	秋期	冬期	春期	国RL	県RDB		秋期	冬期	春期	夏期	① 国RL			② 県RDB	
1	ハト	ハト	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●					1
2			カワバト(ドバト)	<i>Columba livia</i>		●									○							○	1
3	キツツキ	キツツキ	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	●	●	●			●	●				●	●	●	●					1
4	スズメ	カラス	オナガ	<i>Cyanopica cyanus</i>		●	●											●					1
5			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>					●	●					●	●	●	●					1
6			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●					1
7		シジュウカラ	シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●					1
8		ツバメ	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i>			●				●						●	●					1
9			イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>				●															2
10		セキレイ	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	●				●														2
11			ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i>			●																2
12		ヒヨドリ	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●					1
13		モズ	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>	●										●	●							1
14		ウグイス	ウグイス	<i>Cettia diphone</i>		●									●	●							1
15		ヒタキ	キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	●																		2
16			トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>		●										●							1
17			シロハラ	<i>Turdus pallidus</i>		●				●						●							1
18			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>		●																	2
19			ツグミ	<i>Turdus naumanni</i>		●				●						●							1
20			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	●	●										●						NT2	1
21			ジョウビタキ	<i>Phoenicurus auroreus</i>	●	●				●					●	●							1
22		エナガ	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	●	●	●								●	●							1
23		メジロ	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i>	●	●	●		●	●	●				●	●	●	●					1
24		ムクドリ	ムクドリ	<i>Spodiopsar cineraceus</i>		●	●									●	●	●	●				1
25		スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>		●	●				●						●	●					1
26		アトリ	カワラヒフ	<i>Chloris sinica</i>	●	●	●								●		●						1
27			アトリ	<i>Fringilla montifringilla</i>												●							3
28			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>												●							3
29			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	●	●	●			●						●							1
30		ホオジロ	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>	●	●	●			●							●					NT2	1
31			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	●	●	●																2
32	タカ	タカ	オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>	●										●							NT	1
33			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>												●							3
34	チドリ	シギ	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>		●																	2
35	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ	<i>Caprimulgus indicus</i>	●								VU	VU									2
合計	6目	19科	35種		17種	23種	16種	1種	7種	12種	8種	2種	4種	1種	14種	21種	12種	12種	1種	4種	1種		

■平成 28・29 年度調査の分類について

注 1) 分類は、原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年 日本鳥学会)に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は以下の通り。

①「環境省レッドリスト 2017」(平成 29 年 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

②「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年 埼玉県)の「低地帯 荒川以西」に指定されている種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足 LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

RT: 地帯別危惧 NT1: 環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの。 NT2: 生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。

※春季の調査は「繁殖鳥」のランクで選定した

注 3) 外来種の選定基準は以下の通り。

①「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)で特定外来生物として指定されている種

②「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成 27 年 環境省)で生態系被害防止外来種として掲載されている種

③「外来種ハンドブック」(平成 14 年 日本生態学会)に「日本の外来種」として掲載されている種













No.	目名	科名	種名	学名	平成21・22年度調査											平成28・29年度調査										H21・22とH28・29両方1 H21・22のみ2 H28・29のみ3
					H21 秋期	H22調査				鳥類 調査中 の記録	県 RDB	外 来 種	確認場所					時期				希少種		外 来 種		
						樹林地		草地					その他	①	②	①	②	その他	H28 秋期	H29 春期	H29 夏期	H29 秋期	国 RL		県 RDB	
①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓				
368	シジミチョウ	シジミ科	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladonides</i>																			1			
369			ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>																				1		
370			ムラサキシジミ	<i>Narathura japonica</i>																					3	
371			ヤマトシジミ本土亜種	<i>Zizeeria maha argia</i>																					1	
372			ツバメシジミ																						2	
373			ウラナミシジミ																						2	
374			トラフシジミ																						2	
375			ウラギンシジミ	<i>Curetis acuta paracuta</i>																					1	
376			タテハチョウ	タテハ科	ツマグロヒョウモン	<i>Argyresthia hyperborea hyperborea</i>																			1	
377			アカボシゴマダラ原名亜種		<i>Hestina assimilis assimilis</i>																				1	
378			ゴマダラチョウ		<i>Hestina japonica</i>																				1	
379	ルリタテハ本土亜種	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>																						3		
380	イチモンジチョウ	<i>Ladoga camilla japonica</i>																						1		
381	ヨミシジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>																						1		
382	キタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>																						1		
383	ヒメアカタテハ	<i>Cynthia cardui</i>																						1		
384	ジャンメチョウ	ジャンメ科	ヒカゲチョウ		<i>Lethe sicilis</i>																			3		
385	コジャノメ		<i>Mycalesis francisca perdiccas</i>																					3		
386	クロコマチョウ		<i>Melanitis phedima oitensis</i>																					3		
387	ヒメジャノメ																						2			
388	サトキマダラヒカゲ																						2			
389	スズメガ	スズメガ科	トビイロスズメ	<i>Clanis bilineata tsingtauca</i>																			3			
390	オオスカシバ		<i>Cephonodes hylas</i>																				3			
391	ドクガ	ドクガ科	キアシドクガ	<i>Ivela auripes</i>																			3			
392	ヤガ		アケビコノハ	<i>Adris tyrannus</i>																			3			
393	ウスチャヤガ		<i>Xestia dilatata</i>																				3			
394	シャクガ	ユウマダラエダシャク																					2			
395	カノコガ	カノコガ																					2			
合計	13目	123科	395種		20種	52種	138種	67種	99種	88種	40種	8種	1種	10種	84種	98種	91種	109種	193種	136種	118種	122種	106種	1種	1種	13種

■平成 28・29 年度調査の分類について

注 1) 分類は、原則として「日本産野生動物目録(無脊椎動物編 II)」(平成 7 年 環境庁)に準拠した。

注 2) 希少種の選定基準は以下のとおり。

① 「環境省レッドリスト 2017」(平成 29 年 環境省)

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群

② 「埼玉県レッドデータブック 2008 動物編」(平成 20 年 埼玉県)の「低地帯 荒川以西」に指定されている種

EX: 絶滅 EW: 野生絶滅 CR+EN: 絶滅危惧 I 類 CR: 絶滅危惧 IA 類 EN: 絶滅危惧 IB 類 VU: 絶滅危惧 II 類 NT: 準絶滅危惧 DD: 情報不足

LP: 絶滅のおそれのある地域個体群 RT: 地帯別危惧

NT1: 環境条件の変化によって容易に絶滅危惧に移行しうる属性を本来有しているもの。

NT2: 生息状況の推移から見て、種の存続への圧力が強まっていると判断されるもの。

注 3) 外来種の選定基準は以下のとおり。

① 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成 16 年 6 月 2 日法律第 78 号)で特定外来生物として指定されている種

② 「我が国の生態系に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成 27 年 環境省)で生態系被害防止外来種として掲載されている種

③ 「外来種ハンドブック」(平成 14 年 日本生態学会)に「日本の外来種」として掲載されている種

④ 上記の文献の発刊、公示以降に国内への侵入が確認された外来種。